

## 利便性か、安全性か？・・・無料 Wi-Fi の進む道

酒井 寿紀 (Sakai Toshinori) 酒井 IT ビジネス研究所

### 日本はつながらない国

2013年11月9日の日本経済新聞は、「外国人集客にネットの「壁」という記事で、日本のインターネット環境の問題を取り上げていた。

日本でも無料 Wi-Fi (無線 LAN) が、空港、駅などでかなり使えるようになった。しかし、無料 Wi-Fi がある場所なら一般にどこでもすぐインターネットが使える欧米と違い、日本ではメールアドレスの入力を要求されることが多く不便だという。そのため、欧米からの来訪者には「日本はつながらない国」に見えるという。

観光庁の調査によると、訪日外国人が日本で「旅行中最も困ったこと」のトップは「無料 Wi-Fi 環境」で、24%だったということだ。

シンガポールや台湾も無料 Wi-Fi の普及に力を入れているので、こういう状況の改善は観光振興の必須条件だと同記事は指摘している。

### メールアドレスの入力は必要か？

上記記事の通り、日本では交通機関、コーヒーショップ、コンビニなどの無料 Wi-Fi で、メールアドレスの入力を要求されることが多い。同じスターバックスでも、米国ではメールアドレスの入力など不要なのに日本では要求される。どうしてなのだろうか？

インターネットを使った犯罪が後を絶たず、中でも無料 Wi-Fi を使った犯罪は、犯人の特定が困難だ。そのため、犯罪の捜査を容易にし、ひいては犯罪の発生を

未然に防げるよう、無料 Wi-Fi の利用者にメールアドレスの入力を要求しているのだと言っている無料 Wi-Fi もある。

しかし、ホテルなどの無料 Wi-Fi にメールアドレスを入力せずに使えるものがあるのに、一部の無料 Wi-Fi だけがメールアドレスの入力を要求してもあまり意味がない。犯罪者はそれが不要なものを使うだけだからだ。大して効果がない安全対策のために、多数の一般ユーザーが不便を強いられている。

中には安全対策は表向きの大義名分で、実際は広告の配信を主目的にしているところもあるようだ。

### 暗号化は必要か？

自宅や企業の Wi-Fi のデータが暗号化されているのに、無料 Wi-Fi には暗号を使っていないものが多いので危険だと主張している人もいる。Wi-Fi は無線なので、有線回線を使った通信より盗聴の危険性が高いのは事実だ。そのため、無料 Wi-Fi の接続時に ID やパスワードでログインしてデータを暗号化するようになっているものもある。

しかし、こうして Wi-Fi のデータを暗号化しても、暗号化されるのは端末とアクセスポイント(AP)の間だけである。AP 内やそれより上流では暗号化前の元のデータがそのまま流れる。

また、一般に使われている WEP という暗号では、鍵が1つの AP 内で共通で、無料 Wi-Fi では誰でも入手できるので、悪事を働こうとする者にとっては鍵がかかってないのに等しい。

一方、漏洩しては困るデータを扱う、銀行、証券会社、オンラインショッピングなどのサイトでは、端末とサーバの間でデータを暗号化しているのに、無料 Wi-Fi 上でも当然暗号化されることになる。

こういう状況を踏まえると、接続に余計な手間をかけて無料 Wi-Fi 上のデータを常時暗号化する必要性は必ずしもない。

### 利便性か、安全性か？

家に頑丈な鍵を多数つければ、安全性は高まるが、家の出入りには不便だ。一方、ドアにまったく鍵をかけなければ、出入りには便利だが安全性は極めて悪い。

このように、利便性と安全性は往々にしてトレードオフの関係にあり、両者の妥協点を見つけることになる。無料 Wi-Fi の使い勝手と安全性の関係も同じだ。現状を見ると、欧米では使い勝手優先の考えが強く、日本では安全性重視の考えが強いようだ。なぜこのような違いが生じたのだろうか？

日本の社会では昔から手続きなどにわずらわしいことが多く、それに慣らされていることがあるのかもしれない。典型的なのは役所の手続きだ。そのため、大枚を投じて IT 化しても、住基カードや e-Tax は使い勝手が悪くて一向に普及しない。

こういう状況に慣らされてしまっているのに、日本人は無料 Wi-Fi 接続時の多少のわずらわしさなどにあまり抵抗を感じないのかもしれない。

それに引き換え、アマゾンのサイトで商品を買ったり、アップルのサイトから楽曲をダウンロードしたりするときの手続きは実にシンプルだ。欧米人が日本のインターネット環境に不便を感じるのもうなずける。

公衆 Wi-Fi でも機密性の高い情報を扱いたいこともある。そのため、事前にユーザー登録が必要で、Wi-Fi 上のデータが暗号化されている有料 Wi-Fi と、メールアドレスやパスワードの入力なしに、誰でもどこでも簡便に使える無料 Wi-Fi を使い分けられるのが今後の望ましい姿ではなかろうか。

ただ、無料 Wi-Fi で安全性を軽視してよいという話では決してない。スマートフォンやタブレットでも、パソコン同様にアンチウイルスやファイアウォールの機能を使って、十分な安全策を講じる必要がある。そういう機能が現在非常に貧弱なことは、また別の大きな問題だ。

無料 Wi-Fi の関係者は、頭を切り替えて、使い勝手と安全性のトレードオフでもっと使い勝手を重視しないと、日本は世界の中で取り残されてしまう。